

渡嘉敷副大臣の「健都構想」

渡嘉敷奈緒美(とかしき・なほみ)厚労副大臣(53)の肖像が5日夜、東京・赤坂での経済人との会合で、健康医療のまちづくり「健都構想」を語った。衆院大阪7区で、維新(当時)の西小百合氏を破り、当選3回である。

「『高齢化社会も良いものだ!』と、世界に証明し、発信する。長



寿世界一の日本だけが商品化できる『予防医療情報』をビジネス化する。地域医療の積極的参画を求め、健康で長寿の好循環につなげる」
超高齢化社会を逆手にとって、アベノミクスの成長戦略や地方創生、1億総活躍の一助にしようという案である。具体的には。

「選挙区のJR岸辺駅(大阪府吹田市)前に、北千里にある国立循環器病研究センター(同市)が移転する。これに吹田市民病院や医療企業、研究機関を集積して、世界レベルの複合医療産業拠点を形成する」

移転用地は、吹田操車場跡地が30秒あり、吹田市と同府摂津市が持っている。い



5250

で、親友である。途中で落選したとき、「この構想を考えた」といつから興味深い。

しい。京都へ30分、大阪へ12分、神戸に30分の至便の地だ。この大規模プロジェクトを3年後にはオープンしたい」

吹田市長は賛成か。「私と反目の維新の市長がいたが、4月の統一地方選で、自公推薦

で市職員を対抗馬に立てて勝った」中央官庁は。

「厚労省は応援態勢だ。1年半前から厚労省の職員が吹田市に出向している。経産省も乗り気で、相談に応じている。先日、安倍晋三首相に約1時間説明したら、『面白い計画だね』とうれしい反応だった」

渡嘉敷氏は、自民党の稲田朋美政調会長と同期当選

中に、循環器病研究センターの向かいの薬局で働いていた。循環器病

は、脳卒中、認知症、心臓病などで、日本人の死因でがんに次いで2位。がんは予防が難しいが、循環器病は予防できる。循環器に特化して、病気を減らす、まちづくりができないか、と考えた」

この思いから、渡嘉敷氏は政務官人事の際に「ぜひ、厚労省に」と厚労政務官、次いで、熱心に希望して厚労副大臣である。

「高齢者の健康は、食事と運動のバランス。この情報を商品にする。『なんで日本は健康で長生きできないか。お金を払ってでも知りたい』という声を外国で聞く」
大臣である。

(政治評論家)

「予防医療をビジネスに」